



福岡県立大学広報

Fukuoka Prefectural University

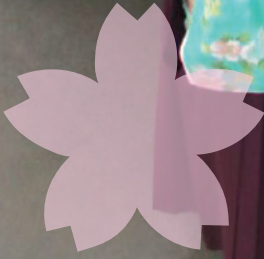
Kendai

magazine 2017 春号

no.22

Contents

卒業式	P2
成績優秀者	P3
秋興祭	P4
就職活動奮闘記	P5
入試情報 PICK UP	P6
大学院子ども教育専攻、国際交流	P7
サークル紹介	P8
教員研究紹介	P9
学内西鉄バス停について、退職教員紹介	P10・11
基金、入学者のみなさまへ	P12



卒業式

平成29年3月17日に、平成28年度卒業式が行われ、学部242名、大学院18名の計260名に卒業証書・学位記が授与されました。

柴田洋三郎学長は俳人・松尾芭蕉の「不易流行」という言葉を紹介し、時々の最適解を追究し、何事にも積極的に取り組んで欲しいという激励の言葉を送りました。

次に、公共社会学科の藤本優佳さん、社会福祉学科の入江敦美さん、人間形成学科の奥村みくさん、看護学科の伊藤茜さん、三浦萌恵さん、吉田菜さんの計6名が成績優秀者として学生表彰されました。

学部卒業生代表として人間社会学部濱崎恭司さん、大学院修士代表として看護学研究科の松本美緒さんが謝辞を述べ、最後に福岡県立大学吹奏楽団の伴奏で学歌を会場全員で斉唱して式を終了しました。



▲式辞を述べる柴田学長



▲謝辞を述べる濱崎恭司さん



▲謝辞を述べる松本美緒さん



▲学歌斉唱



人間社会学部
公共社会学科
藤本 優佳

私は、大学生活の学業において、目標を立て、全力で取り組むことを心がけてきました。具体的には、2ヵ国留学と営業のアルバイトに挑戦しました。そして、春からは希望していた日本と海外を繋ぐことができる仕事に就きます。大学4年間を振り返ると、資格試験の勉強やインターシップ、就職活動、卒業論文などの大きな波があり、失敗することも多く、乗り越えることも決して楽ではありませんでしたが、友人や先生、家族が支えてくれたおかげで一步一步成長することができました。丁寧に指導して下さった先生や、共に頑張ってきた友人、そして、応援してくれた家族には心から感謝しています。大学卒業後も、素直に学ぶ姿勢を忘れず、夢を追いかけていきたいと思っています。



人間社会学部
社会福祉学科
入江 敦美

大学生生活4年間を振り返ってみると、たくさんの人との出会いからたくさんの学びがありました。大学に入って始めたボランティア活動では、様々な人に出会い、様々な価値観に触れ、人と関わる上で大事なことを学びました。また、実習では、人を支援することの難しさを学びました。上手いかわからないこともたくさんありましたが、人のために一生懸命になれる福祉の仕事が好きだと改めて感じました。そして、大学生生活の最大の学びは、自分を支えてくれている人がたくさんいるということです。いつも励ましてくれたゼミの先生や他の先生方、苦しい時こそ一緒にいてくれる友達、いつも応援してくれた家族、すべての方に感謝しています。これからも感謝の気持ちを忘れずに、精進していきます。



人間社会学部
人間形成学科
奥村 みく

4年間の大学生活では、講義やゼミ、実習を通して多くの経験をしました。知識や技術を習得するだけでなく、友人と意見を交わすことで自分の視野を広げることができ、それが多くの学びに繋がったと実感しています。実習では、講義で得た知識だけでは上手いかわからないという戸惑いや困難もありましたが、友人と共有することで乗り越えることが出来たのだと思います。正直この4年間でつらいこともたくさんありましたが、家族や友人、先生方の支えがあったからこそ卒業を迎えることができ、自分自身成長することができました。これから社会人となり、これまでにない苦難にぶつかることがあると思いますが、大学生活で培ってきた自分自身の力を信じ、頑張っていきたいです。

成績優秀者 として表彰された卒業生の皆さん



看護学部
看護学科
伊藤 茜

大学での4年間は授業、実習、ゼミなどで様々な事を経験しました。特に最後の1年は看護学実習や公衆衛生看護学実習、卒業論文、国家試験など密度の濃い毎日、時間の経過が早かったです。実習では知識を得る他にも大切な事を数多く学ぶことができました。先生方はまだまだ何もできない私に対し、熱心に指導して下さいました。また、最後まで成し遂げることができたのは、同じ実習グループやゼミの友人の支えがあったからこそだと思います。先生方、指導者の方々、実習メンバー、対象者の方との関わりは私の財産となりました。多くの方々のおかげで、自分なりに成長することができたのではないかと思います。学生生活での学びを活かし、社会人として頑張りたいと思います。



看護学部
看護学科
三浦 萌恵

「逃げ出したい」そう思うことがたくさんあった4年間でした。しかし、もうひと踏ん張りしようと立ち上がる力を与えてくれる方々の存在が私を前に進めてくれた4年間でした。楽しい時、辛い時、どんな時にも私の隣にはかけがえのない友がいて、迷い悩んだ時導いてくださる先生や指導者の方がいて、いつの間にか当たり前になっていた優しさが心に染み渡る家族の存在が私を支えてくれました。そして、ボランティアや実習などで巡り合う方々が人生の先輩として教えてくださったことは、自分を見つめ直す機会にもなり、成長につながる貴重な体験をさせて下さいました。出会った全ての方々へ恩返しする気持ちで、卒業後も日々精進して参りたいと思います。本当にありがとうございました。



看護学部
看護学科
吉田 菜

私は1年生の頃から「養護教諭になりたい」という自分の夢を叶えるため、大学の講義や実習はもちろん、ボランティア活動等にも積極的に参加し、日々努力してきました。特に、3年後期からは看護実習、教育実習、教員採用試験、統合実習、卒業研究、国家試験と休む暇もなく怒涛の日々が続き、正直心が折れそうな時もありましたが、同じ目標をもつ仲間や話を聞いてくれる家族、親身になってご指導して下さいました先生方のおかげで、最後まであきらめずに頑張ることができました。卒業後は、学生という立場とは異なる社会人としての自覚を持ち、これまで支えて下さった方々への感謝を忘れずに、これからも努力していきたいです。4年間ありがとうございました。

晴天のもと開催することができた第25回秋興祭も、大変多くのご参加を賜り、深く感謝申し上げます。今年の秋興祭でも、地域のみなさまと学生と一緒に盛り上がるステージ上での地域企画、子供向けの県大オリンピックなど、子供から大人の方まで楽しむことができる催しを取り入れました。

また、毎年恒例の人気の模擬店や、シンボルになっている大アート、会場を幻想的に照らす提灯などもご来場くださったみなさまにご覧いただき、大成功に終わることができました。これも、秋興祭にご支援くださっているみなさまのご協力あつての成功であることを、実行委員一同心より感謝しております。

今年も124名で綿密に準備を重ねて本番に臨みました。今回の課題点・反省点を活かし、よりよい秋興祭を来年以降も開催できるよう実行委員一同努力してまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。

第25回秋興祭実行委員会
実行委員長 岡本 奈津子



第25回 秋興祭

S-Y-U-K-O-U-S-A-I



オレンジリボン運動



オレンジリボン運動は、幼い二人の子どもが虐待で命を落とした痛ましい事件をきっかけに始まった児童虐待防止の啓発活動です。平成26年から公衆衛生看護学領域の教員が呼びかけて始めました。

主な活動は秋興祭でのキャンペーン活動です。今年には看護学部1、2年生33名が参加しました。学生たちが児童虐待について勉強して作成したチラシをおよそ500名に配布しました。クイズを使った手作りポスターの説明、小さなお手製リボンで作るビッグオレンジリボンも好評でした。

事前に地元の保健師、社会福祉協議会や児童相談所の職員の方との勉強会も行いました。学生と一緒に児童虐待防止活動を少しでも広げられればと考えています。

看護学部 公衆衛生看護学領域
准教授 山下 清香
助教 檜橋 明子



人間社会学部 公共社会学科
濱崎 恭司

内定先
**安川コントロール
株式会社**

地元福岡で就職したいという希望はありましたが、就職活動をしていくなかで、これまでに建築や機械、料理、絵画、大学祭など、様々な形のモノづくりに触れ、魅力を感じてきたことに気付き、その両方が合致した企業として選んだのが安川電機グループでした。グループ内の複数の会社から内定をいただくことができ、それぞれの採用担当者の方とお話をさせていただいた結果、今の会社に入社することを決めました。

就職活動はたくさんの企業の情報を得られる数少ない機会だと思います。実際に足を運んで、話を聞いて得られるものはきっと大きな財産になります。これから就職活動をする後輩たちはもちろん不安もあるでしょうし、心が折れそうになることもあるかもしれませんが、納得のいくまで取り組んでみてほしいと思います。自信を持って、頑張ってください。



人間社会学部 社会福祉学科
隈部 貴子

内定先
**北九州市
社会福祉協議会**

実習の中で、本来生活の場である地域で暮らすことが困難であるというケースを目の当たりにし、地域で生活することの重要性を実感したことから、地域福祉の基盤を作る住民の方々の支援を行う社会福祉協議会に就職を希望しました。

就職活動の時期は精神保健福祉士の実習中であったため、準備が出来る時間は限られており、焦りや不安もありましたが、先生方やキャリアサポートセンターの相談員の方々に履歴書や面接などについて指導をしていただき、自分が出来ることを確実にやっていこうと思いながら取り組んでいました。特に苦手意識のあった面接の対策を重点的に行いました。伝えたいことを言葉で相手に伝える難しさを痛感することも多々ありましたが、今まで知らなかった自分の一面に気付くこともできました。

4月から社会福祉協議会の職員として日々成長していけるよう頑張りたいと考えています。



人間社会学部 人間形成学科
井上 のぞみ

内定先
福岡市（保育士）

公務員試験の勉強に力を入れ始めたのは4年生の4月からです。実際の試験では、筆記や面接以外にもピアノ実技や体力測定などがありました。どれも大変でしたが、1つひとつ丁寧に対策をしていきました。私は福岡の出身ではないため、受験するにあたって福岡市についてとても勉強しました。実際に市の保育所周辺や公園に足を運び、まちの様子を観察しに行ったこともあります。市について知れば知るほど「このまちで働きたい」という意欲につながり、また、自分のこれからのビジョンも見えやすくなりました。就職活動中、心が折れそうになることも多々ありましたが、キャリアサポートセンターの方や先生方、多くの友人に支えられ乗り越えることができました。本当に感謝しています。

春から長年夢に見ていた保育士として、精一杯がんばっていきたいです。



看護学部 看護学科
福井 奈々子

内定先
**福岡市立病院機構
福岡市立こども病院**

小児看護実習の時にこども病院で実習をさせていただき、患児やその家族との関わりを通してやりがいを感じたことに加え、病院の雰囲気や指導が充実していると感じ就職を希望しました。就職活動は2年生のころから病院の合同説明会に参加して様々な病院のお話を聞き、早くから意識をしていました。就職活動と実習の時期が被っていたことから、3年生の春休みに履歴書の内容や自己PRを手帳にまとめるなどしていました。面接練習では過去の情報をもとにキャリアサポートセンターやゼミの先生から練習を何度もしていただいたことから自信を持って就職試験に臨むことができました。

就職してからも、何事に対しても一生懸命に取り組み、社会人としての自覚を持ちながら行動していきたいと考えています。また、学生時代と同様に自己学習を一層深め、一人前の看護師になれるように日々励みたいと思います。



福岡県立大学では、大学教員が高校に出向いていく「出前講義」を実施しています。生徒のみなさんに、大学講義の雰囲気を味わい、日常の授業では体験できない内容の授業を体験していただくものです。そして、より専門的な内容や福岡県立大学そのものに興味を持っていただきたいと思っています。「健康・医療・看護」、「教育・心理・保育」、「社会・福祉」、「国際」の4つの分野で、様々なテーマを用意しています。詳しくは、本学ホームページの「テーマ一覧」をご覧ください。

●福岡県立大学ホームページ「テーマ一覧」

<http://www.fukuoka-pu.ac.jp/deliLecture.html>

～サマースクール～

平成28年8月6日、高校1・2年生を対象としたサマースクールを本学で開催しました。サマースクールは、高等学校での学びを大学へ繋げるために、高校生に受動的な学習から主体的な学習への転換を意識してもらうことを目的に、主体的に学ぶ演習やゼミ形式の授業を平成27年度から夏のオープンキャンパスの日に実施しています。

当日は、人間社会学部講座「社会福祉について考えるー障害者施設虐待の現状と課題ー」（寺島正博 講師）に10名、看護学部講座「いのちといやしのワークショップ」（猪狩崇 助教）に22名の高校生が参加しました。受講後のアンケート（回答者30名）では、大学での学びに対する意欲がとても高まった（46.7%）、少し高まった（46.7%）との回答を得ました。

サマースクールは、来年度も実施する予定です。

～高大連携に関する情報交換会～

平成28年9月22日、高等学校の教職員の方々と高校生学ぶ意欲の向上、進路に対する明確な目標設定につながる高大連携の取組をテーマとした情報交換会を本学で開催しました（出席者：高校教諭7校7名、本学から学長、両学部長、入試部会員の計7名）。

柴田洋三郎学長から「高大接続システム改革ー2020年スタートの大学入試『新テスト』について」の検討状況が紹介され、高等学校の先生方との意見交換を行いました。また、保護者が求める「大学情報」について、高等学校の先生方から学生の大学生活や就職先での様子がわかるインタビュー動画を作成して欲しいなどの意見をいただきました。

高大連携に関する情報交換会は平成26年度から年1回開催しており、来年度も開催する予定です。

Facebook での入試情報マガジン「福岡県立大学で学びませんか」が平成29年1月18日にスタートしました。18歳人口が大幅に減少する2018年問題を目前にして、このマガジンを核に攻めの入試広報を展開します。「本学で学ぶことに少しでも興味のある高校生」をメインターゲットに、(1) 入試情報 (2) オープンキャンパス・入試説明会などのお知らせ (3) 学生や教員の活動・卒業生の活躍などを発信します。動画掲載も検討中です。「いいね！」がたくさんいただけるマガジンを目指します。



大学院 子ども教育専攻 開設

本学では、近年の保育・教育を取り巻く保育施設の拡充、質の充実の課題を受け、平成29年度より、人間社会学研究科に子ども教育専攻を設置します。

子ども教育専攻では、保育・幼児教育及び小学校段階を中心とする学校教育分野を中心とする諸課題について研究・教育を行います。すなわち、現在の社会の中での乳幼児期から学童期における人間発達の姿を知り、その諸課題を保育学・教育学、児童福祉学及び関係諸科学から研究・教育することを目指しています。特に、理論と実践の往還による融合を図ることにより、高度な専門的知識の修得はもちろんのこと、様々な教育課題の解決に資する優れた課題解決能力とともに、保育・教育現場で中核的な役割を担うことのできる質の高い実践的指導力を身に付けた専門的職業人を育成することを目的としています。

特色として、以下の4点があります。

- ① 子ども教育分野の高度な専門的職業人及び研究者を育成することを目的とします。
- ② 子ども教育に関わる先進的な取組事例の研究などを通じて、保幼小連携の強化への取り組みに対応できる幅広い専門知識を修得させます。
- ③ 子ども教育分野における今日的な教育課題や地域教育課題を自ら見出し、解決できるような保育者・教員などの高度専門職業人として必要とされる、優れた問題解

決能力を修得させます。

- ④ 子ども教育の現場での実習と大学院における理論学習の往還を重ねて、現場をリードする質の高い実践的指導力を修得させます。

保育、幼児から学童期の教育に興味と関心をお持ちの方のご連絡をお待ちしております。また、現在保育、教育現場で働かれています皆様の受験も可能ですので、合わせてお願い申し上げます。

大学院 子ども教育専攻
講師 伊勢 慎



国際交流



（留学生が小学校の英語授業に 参加しました！）

本学に留学中の中国人留学生3名（南京師範大学生）が田川市立伊田小学校で英語の講師として授業に参加しました。

伊田小学校の「小学校外国語活動に関する研修会」では、5年生のクラスで英語の公開授業が行われました。授業の目的は「自信を持って英語でコミュニケーション」をとることです。元気な児童達が学習した英語を使って外国人と会話練習をしました。

本学の中国人留学生は3名とも日本語が堪能で英語も得意です。1名は中国の全国大学生英語コンテストで入賞しています。今回は授業のテーマ「県立大学の留学生やALTの方に田川や伊田のおすすめの場所を紹介しよう」に沿って児童のグループの中で英会話を指導しました。

はじめのあいさつ（Good morning! How are you?）から、田川を紹介する会話トレーニング、最後の挨拶（See you!）まで担任の先生がリードし、笑顔が絶えない授業になりました。





運動系サークル

女子サッカー部

こんにちは！女子サッカー部は、部員61名と、外部指導者1名で活動しています。

毎週火曜日に大学のグラウンドで約2時間、みんなで楽しく練習を行っています。部員はほぼ全員初心者ですが、学年関係なくみんなでアドバイスをし合い、協力しながら汗を流しています。大会に参加することはありませんが、チーム内で試合をし、みんなで体を動かすことで技術向上を目的とし、日々の練習に励んでいます。

練習だけでなく、夏休みには合宿を行ったり、練習終わりなどに先輩後輩関係なく遊びに行ったりしています。部員同士の仲が良く、みんな笑顔が絶えないところも女子サッカー部の誇れる点です。

また、夏にある福岡県立大学のオープンキャンパスのお手伝いをしたり、学校行事にも取り組んだりしています。

「大学でスポーツをしたいけど、友達もできるか不安だし、運動があまり得意ではないな」と考えている人も不安に思うことなく、ぜひ一度グラウンドに練習を見に来てください！！友達づくりはもちろん、女子サッカー部でしか味わえない経験もたくさんできると思います。新入生の皆さんと、沢山の思い出を共有できることを部員一同心待ちにしています。ぜひ私たちと一緒に楽しいキャンパスライフを過ごしましょう！

【部長】人間社会学部 社会福祉学科
山村 美鈴



サークル紹介



文化系サークル

演劇部

皆さんこんにちは。私たち演劇部は平成28年4月に結成された、福岡県立大学のサークルの中でも新しいサークルです。楽天的で頼りないアイドル好きの部長（部内ではPと呼ばれています）と、しっかりしていて頼りがいのある部員たちの9人で、週一回のペース（日には部員で話し合っています）で練習をしています。具体的には、発声練習、台本読みなどを行っており、役者志望も裏方志望も日々自分の技術の向上に励んでいます。演劇部は結成当時、演劇経験者が2人のみという状態で、発声練習もままならない状況でしたが、4月から1年間を通して、未経験者も練習の成果を自分のものにしてきました。

この1年間に行った活動として、10月の終わりに田川市の隣の福智町で行われた敬老会にて、オレオレ詐欺の注意喚起の寸劇を披露しました。オレオレ詐欺の手口は毎年巧妙化していると田川警察署で話を伺った上で、その悪質な手口を、高齢の方が多い中で、いかに分かりやすく伝えるかを部員同士で考え、工夫を重ねて劇を完成させました。敬老会での評判も上々で、劇と一緒に作ることの喜びをみんなで共有できました。

演劇部では、この1年間の反省を踏まえ、これから文化祭への出演などの様々な活動を行っていく予定です。これからの演劇部の活動にご期待ください。また、上演のご依頼も、部員一同お待ちしております。

【部長】人間社会学部 社会福祉学科
菅谷 仁志



不登校の要因や支援方法について研究しています



看護学部ヘルスプロモーション看護学系
講師 原田 直樹

平成27年現在、小・中・高校を合わせ、全国で約17万5千人の児童生徒が、学校に行くことができない「不登校」の状態にあります。この数は全国小・中・高校の児童生徒総数の1.3%に相当し、不登校は大きな社会問題であると言えます。

不登校とは、文部科学省の定義によると、「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しない、あるいはしたくともできない状況にあるため年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」とされています。欠席日数による定義付けが中心であるため、一言で「不登校」と言っても、不登校児童生徒の状況はもちろん、その要因も実に様々です。

近年、この不登校の要因の一つとして発達障害が注目されています。もちろん発達障害そのものが直接に不登校のリスク要因となっているわけではありません。発達障害と気付かれず、適切な対応を受けることができない状態が継続した場合に、発達障害の二次的な課題としての「不登校」が生じることがあります。私は、この発達障害と不登校の関連に注目し、全国を対象とした調査を実施し、不登校状態の児童生徒に発達障害が疑われる児童生徒がどれほど存在するか、また学校での支援方法はどのようなものか等の実態を明らかにするとともに、有効な支援方法を開発するための研究をしています。

さらに、不登校支援については、本学では不登校の専門支援機関である「不登校・ひきこもりサポートセンター」が存在します。そのセンターで大きな支援効果を生み出しているのが大学生ボランティアの「県大子どもサポーター」の活躍です。そこで、不登校児童生徒支援における大学生ボランティアの効果検証の研究にも取り組んでいます。

本学が実施する「援助力養成プログラム」は、まず不登校・ひきこもり援助論において不登校児童生徒への関わり方等を学び、その後、県大子どもサポーター等のボランティア活動を通じて、学生の援助実践力を高めようというものです。私は、このプログラムで基礎となる授業と学生の県大子どもサポーター活動に対する指導に当たっていますが、その活躍ぶりは目覚ましく、今や県大子どもサポーターは不登校児童生徒の社会的自立を支援するために欠かせない存在となっています。

現在の研究成果は、不登校児童生徒への有効な支援方法の確立はもちろんのこと、より高い援助力を身につけた学生を社会に輩出できるよう、今後の教育につなげていきたいと考えています。



▲1年生の前期に開講される不登校・ひきこもり援助論の様子。毎年、200名ほどの学生が受講します。



▲不登校・ひきこもり援助論は、インターネットによる専用配信システムを使用し、単位互換協定を締結している連携大学の学生さんも受講しています。



▲学生の援助力を高めるため、県大子どもサポーターの活動後に、活動についてのグループディスカッションやアドバイスをします。

学内西鉄バス停に シェルター、照明が設置されました

このたび、田川ライオンズクラブ様からのご厚意により、学内西鉄バス停留所にバスシェルターと照明が設置され、平成29年3月14日に贈呈式が行われました。

これからは、より快適にバスを利用することができるようになります。田川ライオンズクラブ様に心より感謝を申し上げます。



名誉教授称号記授与式

本学では、多年にわたり本学に勤務し、教育上又は学術上特に功績のあった方に対し、名誉教授の称号を授与しています。このたび、甲斐彰前人間社会学部教授、藤山正二郎前人間社会学部教授、平野泰朗前人間社会学部教授の3名に名誉教授の称号が授与され、平成28年11月1日に授与式が行われました。

本学の名誉教授は、今回の3名を合わせて25名となります



▲前列左:藤山正二郎名誉教授、同右:甲斐彰名誉教授(平野泰朗名誉教授はご欠席)

退職教員紹介

[H29.3.31付]



人間社会学部 准教授
中藤 洋子

社会教育主事の養成課程をつくる、との
お誘いで、平成5年に赴任しました。以来
24年間お世話になりました。

「県大」の最大の魅力は、学生や、ともに
働く皆様との距離が近いこと。学生・院生
たちに恵まれ、教師としてはこの上ない、
幸せな日々を過ごすことができました。学
生たちや、支えてくださった多くの皆様（事
務局はもとより、図書館、生協、そして清
掃やメンテまで）に心から感謝しており
ます。



人間社会学部 講師
平林 恵美

平成23年に着任し、6年間勤務させて
いただきましたが、在職中は教職員の皆様
のご指導とご支援のおかげで多くの学びが
ありました。心より感謝しております。ど
うもありがとうございました。また、私に
とって学生との交流はこの上ない喜びで
あり、何ものにも代えがたい財産になりま
した。微力ではございますが、今後はこれ
まで経験し学んできたことを生かして、精
一杯努力していく所存です。皆様、大変お
世話になりました。



看護学部 教授
佐藤 香代

平成17年に就任し、早いもので12年の
年月が経ちました。その間、地域の皆さま
から、学生や教員へ温かいご支援をいただき、
感謝の念に堪えません。

学部ではホリスティック人間論、女性看
護学、助産学等を担当し、またマザークラス
を通して、学生と地域で活動できる幸せを
満喫することができました。

さらに念願であった大学院における助産
師教育は、三度目に運命の女神が微笑み、
平成27年に創設できました。ホリスティッ
ク助産学の設立は私の夢であり、何物にも
代えがたい喜びでした。ご支援いただいた
皆さまに深く感謝申し上げます。



看護学部 教授
田中 美智子

8年間、大変お世話になりました。看護
系の大学からの異動でしたが、「ところ変
われば・・・」で、多くのことを経験する
ことができ、もの見方や捉え方が少し広
がったのではないかと考えています。学生
への教育ではできるだけ時間を費やし、力
を注ぎたいと思っていましたが、力不足で
学生の力をうまく引き出しきれなかった感
が残っています。この課題にはこれからも
取り組みたいと考えています。場所は違
っても先生方とは教育・研究に関して、
今後も情報交換ができればと思っています。
ありがとうございました。



看護学部 教授
村田 節子

平成21年の8月に赴任して7年と8ヶ月
在任いたしました。看護学部の成人看護学
と大学院看護学研究科の成人看護学及び
がん看護専門看護師コースを担当しました。

多くの方々のご協力とご支援を賜りあり
がとうございました。福岡に帰ってくるな
らがん看護をやれるところだと願って赴任
してまいりました。今後はここでの経験を
もとに新たなチャレンジをしようと考
えております。皆様のご健勝と福岡県立大
学のますますのご発展をお祈りいたします。



看護学部 准教授
宮園 真美

3年間お世話になりました。豊かな自然
の中で、素晴らしい先生方に囲まれて教育、
研究を継続できましたことを心より感謝
申し上げます。

学部教育では臨床看護学系に所属し、素
直で真面目な学生とともに看護の対象とな
る方々へのよりよい看護を一緒に考え、学
生の学びの喜びを共有できました。大学院
教育では、がん看護専門看護師養成に携
わらせていただき、卓越した看護技術の習
得の困難さと奥深さを自らも学ぶことが
できました。この3年間の貴重な体験を今
後に役立てて参りたいと存じます。ありが
うございました。



看護学部 助教
生駒 千恵

私は11年余の臨床経験を経て平成22年
4月に着任し、7年間大変お世話になり
ました。

教員として勤務するのは初めての経験
で、着任当初は「教える」ということの難
しさに悩んだり戸惑うことも多くありま
したが、教職員の皆様が温かくご指導して
くださり、支えてくださったおかげで、学
生とともに私自身も成長することができ
たと感じています。福岡県立大学での貴
重な経験を今後に生かしていく所存です。

7年間お世話になり、本当にありが
うございました。



看護学部 助教
吉村 美奈子

3年間の短い間でしたが、大変お
世話になりました。事務局の皆様方の温
かいご支援、また先生方からのお教
えいただいた事は、私の大切な財
産となりました。臨地実習では訪問
看護師の皆様のお力添えをいただき
ながら学生と一緒に学びあい、貴重
な経験をすることができました。本
当にありがとうございました。これ
からも、福岡県立大学で学んだこ
とを思い出しながら、新たな環境
で少しずつ進んでいきたいと思
います。今後の皆様方の益々のご
健勝と、大学の発展を祈念して
おります。



看護学部 助教
青野 広子



福岡県立大学基金のご案内

福岡県立大学では、学生生活、教育研究等の充実を図り、福祉社会に貢献できる人材を育成することを目的に基金を設置しています。寄附金は、学生支援、国際交流、教育研究活動等の実施に活用されますが、用途を指定することもできますので、皆様のご支援をお願いします。

なお、公立大学法人である本学への寄附は、所得税や法人税、個人県民税等の優遇措置が設けられていますのでご利用ください。

【寄附金受入口座】

福岡銀行 伊田支店 普通 2100481
ヨウリツダイガクホウシヨクオカケンリツダイガク
 口座名義 公立大学法人福岡県立大学 柴田 洋三郎 シバタ ヨウサブロウ

※寄附をされる場合は、事前にご連絡をお願いします。

【連絡先】

事務局経営管理部総務財務班 TEL 0947-42-2118



入学者のみなさまへ

●学生自治会費

新入生:20,000円、編入生:10,000円

○自治会費とは

学生が行う学内活動の運営費は、学生が納める自治会費によってまかなわれています。

●後援会

福岡県立大学後援会は、大学と保護者の連携のもとに、学生の就職活動やキャリア形成支援、学生の修学や課外活動の助成、学生生活の安全対策等の各種支援事業を積極的に行っています。

【後援会費】

	入会金	会費
学部生	40,000円	40,000円
編入生	40,000円	20,000円
大学院生	本学出身者 (在学時後援会加入者)	0円
	本学出身者 (在学時後援会未加入者) 及び他大学卒業生	20,000円

【後援会の主な事業】

合宿フォーラム補助、実習補助 (実習時超過旅費・宿泊費・マンスリー賃貸料等)、公務員講座受講補助、合同企業説明会バス借上料、卒業アルバム作成補助、謝恩会補助、各サークルへの助成 (登録費・遠征費・傷害保険等)、図書等の購入 (書籍・DVD・CD・新聞等)、大学祭補助 等

●同窓会

福岡県立大学同窓会は、県立大学卒業生をはじめ、前身校である福岡県社会保育短期大学、福岡県立保母養成所、福岡県立保健婦養成所、福岡県立公衆衛生看護学校、福岡県立看護専門学校の卒業生と準会員である福岡県立大学在学学生、特別会員である現旧母校職員で構成されています。多くの同窓生が全国各地の保健・看護・行政・企業・社会福祉関係等様々な分野で活躍しています。

【同窓会費】

入会金：10,000円(入学時)、年会費：1,500円(卒業後)

【同窓会事業】

会報の発行・WEBサイト・ブログ更新、同窓会名簿の編集、同窓会総会 (2年に1回開催)、大学の発展に関する協力、会員及び学生の就職活動援助、社会貢献事業

【連絡先】

福岡県立大学同窓会 (開局日：月・水・金)
 福岡県田川市伊田4395 福岡県立大学3号館1階3108号
 TEL (FAX 共用) 0947-42-2777

●福岡県立大学生生活協同組合

【出資金】

15,000円 (卒業時にお返しします)

【学生総合共済・学生賠償責任保険】

生命共済：12,800円 (1年間の掛金)

火災共済：2,000円 (1年間の掛金)

学生賠償責任保険：5,800円(学部生：4年間の保険料)

3,120円(大学院生：2年間の保険料)

大学生生活で起こりうる、もしもの場合に備えるためのものです。実習等に参加する場合には、賠償責任保険に加入する必要があります。詳しくは福岡県立大学生生活協同組合配布のパンフレットで確認してください。

